

SPARC/JAPAN

我が国でも、日本版 SPARC と呼ぶことができる活動が始まるよう
としていきます。それは、国立情報学研究所 (NII) が推進する「国
際学術情報流通基盤整備事業」(通称 SPARC/JAPAN) です。

(<http://www.nii.ac.jp/sparc/>)

この事業は、科学技術・学術審議会/デジタル研究情報基盤 WG
「学術情報の流通基盤の充実について(審議のまとめ)」(平成 14
年 3 月 12 日)の提言に基づき、我が国の学協会が刊行する学術雑
誌の電子化・国際化を支援し、科学技術・学術研究成果の国際的な
普及をより一層促進することを目的として計画されています。

また、NII が中心となり、国内の学協会、大学図書館、科学技術
振興機構 (JST) に加えて、米国 SPARC との連携協力のもとに、
我が国の学術雑誌の国際的評価を高め、かつ適正な価格で提供でき
るビジネス・モデルの形成を促進し、支援を行うことを主眼として
います。現在、NII に置かれている「国際学術情報流通基盤整備事
業評議会」(議長：野依良治理化学研究所理事長)で支援対象学会
誌の公募・選定について協議を行っていますが、本年秋には支援対
象誌が決定される予定です。

大学図書館は何をすべきか？

私たち国立大学図書館協議会では、学術雑誌の価格高騰の現状を
打破するため、いち早く警鐘を鳴らし続けた米国の ARL 等と連携
して、我が国の大学研究者の皆さんに今日の学術雑誌の危機的状況
を訴え、研究者自身が現状を認識し、研究者と図書館が協同で立ち
上がって、現在の学術コミュニケーションの改革を進めていきたい
と考えています。

- 学術雑誌の価格高騰=学術コミュニケーションの危機
を訴えよう
大学の資料購入費は、今後も多くは期待できません。今日の電
子ジャーナルの普及・増加を考えると、その分の開発・維持経

費も冊子体に付加されるため、このままでは各大学で、やむを
得ず図書費を削減するとか、あるいは優先順位の低い雑誌の購
読中止が今後も頻繁に起こるものと思われます。学術雑誌の価
格高騰が引き起こす学術コミュニケーションの危機について、
図書館側から研究者に積極的に働きかけ、研究者と共に学内で
議論をする機会を設け、共通の認識をもつことが重要です。

- SPARC/JAPAN を全面支援しよう
大学図書館は、SPARC/JAPAN の事業計画を全面的に支援し、
学内の諸会議・委員会等さまざまな機会に SPARC/JAPAN の
意義と目的を説明し、研究者に対して積極的な広報活動を通じ
た働きかけを行っていく必要があります。特に SPARC/
JAPAN が支援する英文学術雑誌(学会誌)成功の鍵は、研究
者による優れた論文投稿の有無と国内外の大学図書館を中心
とする雑誌購読によりますので、継続的な雑誌購読と当該分野
の研究者に論文投稿を推奨していくことは大変重要です。
- 北米・欧州の SPARC 誌を紹介しよう
また大学図書館は、北米・欧州の SPARC に対する協力・支援
活動も促進する必要があります。例えば、SPARC 誌を研究者
と協力して購読することをはじめ、いずれかの SPARC 誌の対
象分野に関連した研究者には、SPARC 誌の紹介とともに、論
文投稿や雑誌購読を奨めることも重要です。(下段に三種類の
SPARC 誌のマークを載せています。)



代替誌 非営利団体助成 先端的项目

(2003 年 10 月作成)

- * このリーフレットは、一部 ARL の *Create Change* brochure
に基づいて作成しております。
- * 米国 *Create Change* の邦訳は、下記の URL をご覧ください。
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/sparc/create/home.html>
- * ご意見・ご質問は下記にお寄せください。
国立大学図書館協議会

国際学術コミュニケーション特別委員会
email: anul-international@kenon.l.chiba-u.ac.jp

【大学図書館員のみなさまへ】

Create Change



学術コミュニケーションの革新を！



国立大学図書館協議会

国際学術コミュニケーション特別委員会

2003

学術雑誌の価格高騰と

学術コミュニケーションの危機

価格は高騰、タイトル数は半減

大学図書館は、最近 10 年間、外国雑誌の際限ない価格高騰に悩まされてきました。この価格高騰は、とりわけ STM (Science, Technology, Medicine) と言われる分野の学術雑誌に特徴的に現われていて、皆さんの大学でも価格高騰のため学術雑誌の購読を中止しなければならない事態が数多くあると思います。全国的に見ても、相次ぐ購読中止のため、国内で入手できる外国雑誌のタイトル数は半減している状態です。(図 1)

新たな重圧：電子ジャーナル購読予算の確保

一方、この数年学術雑誌の電子化には急速な進展がみられ、主要な学術雑誌の多くが電子ジャーナル化されてきました。ところが、電子ジャーナルでは印刷、製本、配送等の経費が不要となるため価格の高騰が押さえられるかもしれないという期待は、多くの場合、冊子体との抱き合わせによる価格設定等によって裏切られ、むしろ大学側は、冊子体の購入経費と併せ、電子ジャーナルを導入するための経費負担の重圧に直面しています。

電子ジャーナル化は価格高騰問題を解決しない

これまで、国立大学図書館協議会では、学術雑誌の価格高騰と新たな電子ジャーナルの導入に対処するため、2000 年に電子ジャーナルタスクフォースを立ち上げ、数十回に及ぶ大手商業出版社との協議を行ってきました。その結果、一部の出版社との間で、電子ジャーナルの利用方法、価格設定等において、雑誌価格高騰の部分的抑制やアクセス範囲の拡大といった大学側に有利な条件を引き出すなど一定の成果を挙げてきました。また、個々の大学では、電子ジャーナルの導入のため、全学的な重複雑誌の調整、予算確保などに努めています。しかし、これらの活動にもかかわらず、雑誌価格高騰の流れを押しとどめる抜本的な解決には至っていません。

大手商業出版社の市場寡占化

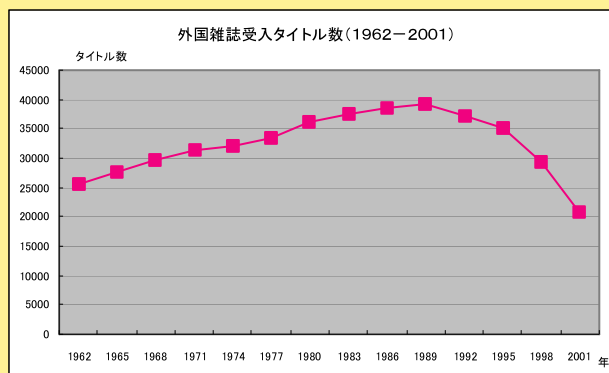
雑誌価格高騰の最大の要因は、大手商業出版社による市場寡占化

にあるといわれています。古くは、Elsevier 社による Pergamon Press 社の買収、最近では Academic Press 社の買収、また Springer 社と Kluwer 社の合併も取りざたされています。大手商業出版社のこれらの買収に必要なとする資金調達、雑誌価格の異常な高騰という問題を引き起こしているとの指摘があります。

学術コミュニケーションのコントロール機能喪失

しかし、この問題をより深く検討してみると、本来学術コミュニケーションの主役であるべき研究者の手から学術コミュニケーションのコントロール機能が失われてしまったことに遠因を求めることができます。具体的には、例えば学術論文の評価、編集、流通の一連のプロセス全体が出版社のコントロールのもとに置かれ、価格設定のプロセスに研究者が関与できないシステムであるとか、論文の著作権までもが出版社に譲渡され、研究者の手から離れてしまっている実態が指摘されています。

図 1. 外国雑誌受入タイトル数 (1962-2001)



(国立情報学研究所による調査集計)

学術コミュニケーションの変革

自立的な学術コミュニケーションの確立

学術雑誌の価格高騰に端的に象徴される現在の学術コミュニケーションの危機的状況を根本的に打開するためには、大手商業出版社主導による現在の学術コミュニケーション体制を変革していか

なければなりません。そのためには、学術雑誌の発行を大手商業出版社から研究者主導のもとに取り戻し、自立的な学術コミュニケーション・システムの新たなモデルを創り出していく必要があります。

SPARC の誕生

欧米では、さまざまな取り組みが行われています。もっとも注目すべきものとして、北米研究図書館協会 (ARL: Association of Research Libraries) が 1998 年、大手商業出版社の価格高騰に歯止めをかけるため、研究者、学協会と連携をとり、研究成果発表の新たなシステムとして、大手商業出版社の高額雑誌に対抗できる学術雑誌を刊行するなど、学協会の出版活動を支援する目的で発足した SPARC (Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition) の誕生を挙げることができます。2002 年には、欧州でも SPARC Europe が形成されました。

SPARC 誌のタイトルは？

現在 SPARC では、代替誌 15 タイトル、学協会支援 6 団体、先端的なプロジェクト 5 団体がパートナーとなっています(詳細は <http://www.arl.org/sparc/core/index.asp?page=c0> を参照)。特に、米国化学会の *Organic Letters (OL)* は、Elsevier 社の *Tetrahedron Letters (TL)* に対抗する学術雑誌として刊行され、価格は Elsevier 社の *TL* の 3 分の 1 ですが、インパクトファクター (論文被引用頻度数指標) が *TL* より高く、評価の高い雑誌に成長しています。

オープンアクセスの保証

また、SPARC が支援している BioMed Central はユニークな生物医学系出版社です。この出版社の取り扱う 55 以上のピアレビュー誌は、オープンアクセスの考え方に立って、無料でアクセスでき、アーカイブも保証されています。科学研究の進展には、研究者への公開が不可欠であることを原則としている出版社です。

「機関レポジトリ」の普及・促進

欧米では、大学コミュニティの研究成果の保存・管理・提供システムとしての「機関レポジトリ」を導入する大学・機関が増えています。SPARC もこのシステムを提唱していて、Web 上で公開している MIT の DSpace などはその代表的なものです。我が国でも実験的に試みている大学もあり、その動きが芽生えつつあります。